

エコスタディ 「エコ・マーケットをひらこう！」

プログラムのねらい

ものがごみになる過程について、体験的に学ばせる活動を通して、もったいないと思う気持ちを育み、自分たちのこれからの消費生活を考えさせる。

対象学年：小学校4年生

関連教科：社会「住みよいまちづくり」

プログラムの概要：エコ・マーケットの体験により、ごみや3Rについて学びます。



社会に関連させたプログラムの活用例と発展例

社会
学
習

住みよいまちづくり

【学習活動】 ゴミについて調べ、ゴミを減らす工夫について考える。

ゴミのゆくえを調べよう

【学習活動】
回収方法、ゴミのゆくえ、
ゴミの問題について調べる。

くらしの中のごみ

【学習活動】
家庭で出すゴミの量や種類を
調べる。

ゴミを減らそう、生かそう

【学習活動】
ゴミを減らす行動や生かす工夫
を考え、3Rについて調べる。

エコスタディ

「エコ・マーケットを
ひらこう！」

【学習活動】
エコ・マーケットの体験を通して、
ゴミについて考える。

発展例

学級環境会議をひらこう

【学習活動】
ゴミを増やさないための行動や
工夫を1週間実践して、これまで
の生活と比べる。

プログラムの準備

概要

一般的に、役割が終ったものを“ごみ”と称しますが、まだ使えるものでも、利用しないとごみになってしまうことがあります。子どもたちの身の周りにある、そういったものを集め、その量を調べてから、校内エコ・マーケットをひらきます。マーケット後に残った量を調べて比較し、ものがごみになる過程や、これからの自分たちの消費行動について考えさせます。

準備

1. 対象者を考え、その担当の先生と調整します。

エコ・マーケットの対象者(参加者)を考えます。

同学年の仲間同士で行ってもいいですし、低学年を対象に実施するのも楽しく行えます。

対象者が決まったら、その学年の担当の先生へエコ・マーケットへの参加を依頼して、場所や日程の調整をします。

2. 備品を用意します。

子どもたちの持ち物の中の不用品(各自)

子どもたちが持っている、不用品(もう使わない

もの)を、持ってこさせます。その場合、以下のような制限をつけましょう。

・文具、玩具、おまけなど、参加者が興味をひくもの。(高価なものは、対象外)

・壊れていたり、極端に汚れているものは避ける。

・グループで持ってくる個数を予め決めておき、

持ってこれない子どもの分は、持って来れる子どもの分で調整する。

新聞紙

子どもたちが持ってきた品物を並べるシートにします。

記録シート

エコ・マーケット前の品物の量と、エコ・マーケット後の品物の量を調べて記録します。P3を、コピーして使ってください。

エコ ちけっと

子どもが楽しみながらエコ・マーケットで品物と交換するためのツールです。P4をコピーし、切り分けて使ってください。枚数は、品物の数と参加者の人数によって調整してください。

ちらし

参加者たちに、マーケットの開催を知らせます。子どもたちが作るか、P5をコピーしてベースとして使ってください。



記録シート

1. エコ・マーケットの前の品物の量と、エコ・マーケットの後の品物の量を調べて比べてみよう。

■ エコ・マーケットの前	★ エコ・マーケットの後
品物は	品物は
こ	こ

2. 残った品物をごみで出すとしたら、どれが多いか調べてみよう。

▲もえるもの

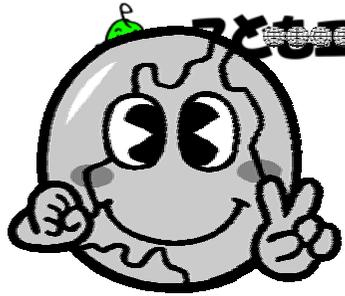
こ

▲もえないもの

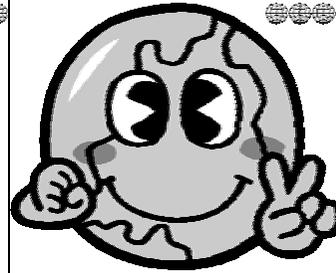
こ

●リサイクルできるもの

こ



エコ☆ちけっと



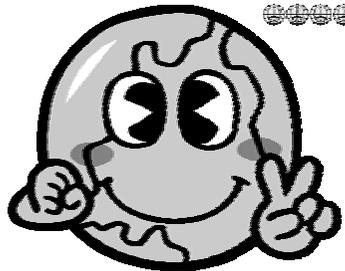
エコ☆ちけっと



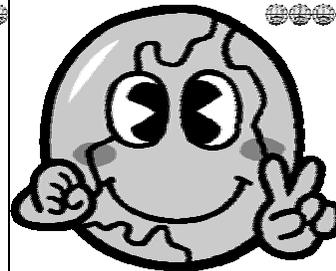
エコ☆ちけっと



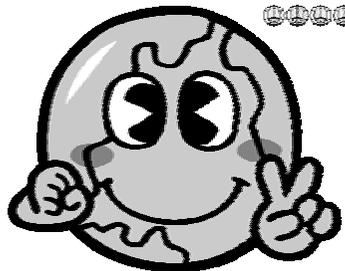
エコ☆ちけっと



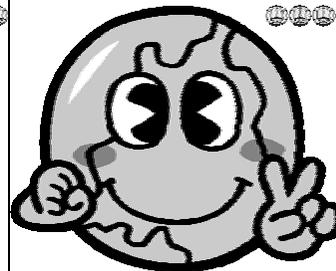
エコ☆ちけっと



エコ☆ちけっと



エコ☆ちけっと



エコ☆ちけっと

エコ・マーケット

「エコ・マーケット」をやるよ！

エコ ちけっと1まいで、しなものがひとつゲットできるよ。

品物の数の調べ方と、エコ・マーケットの方法

エコ・マーケットは、必要のなくなった人から必要とする人に品物がわたるということから、3R(リサイクル、リユース、リデュース)の中では、リユース(再び使う)に当てはまります。環境面からみると、再利用するためにエネルギーを使うリサイクルよりも優れていますが、自分が必要でなくなったものを誰かが使ってくれるというだけでは、ごみの学習にはなりません。

マーケットの前後に、品物の量を調べることによって、本当に必要だったのかを考えたり、誰も使われない時にはごみになるということを知らせるようにしましょう。

1. 品物の数の調べ方

〔エコ・マーケット前〕

新聞紙を広げ、集まった品物を重ならないように新聞紙の上に隙間なく並べて、品物の個数を数えておきます。

〔エコ・マーケット後〕

残った品物の数を数えます。マーケットの前の個数と、残った個数の差が、リユースできた品物の量となります。

2. エコ・マーケットの方法

- ・班やグループで、店をかまえます。
- ・グループで品物の種類や数が偏っている場合は、品物を分配して調整します。
- ・参加者に、「エコ ちけっと」を配布します。

・「エコ ちけっと」1枚について、品物ひとつと交換します。



プログラムの進め方

進め方の手順

[準備]

以下の用意をします。

- ・子どもたちが持ってきた品物
- ・新聞紙
- ・記録シート

1. 導入・・・(例)

ごみのできる過程を考え、ごみを増やさないようにするための工夫のひとつとして、「エコ・マーケット」をひらくという今回の活動内容を説明します。

子どもたちの持ち物の中の、不用品(各自)を持ってくるように指示します。その場合、以下のような制限をつけましょう。

- ・文具、玩具、景品など、低学年の子どもが興味をひくもの。(高価なものは、対象外)
- ・壊れていたり、極端に汚れているものは避ける。
- ・グループで持ってくる個数を予め決めておき、持っ
てこれない子どもがいる場合は、持って来れる子どもが多く持ってくるなど、グループ内で調整する。

支援の言葉(参考)

1. これまで、ごみの問題や暮らしの中のごみについて調べてきました。ごみが増えるということは、資源やエネルギーもたくさん使うということですから、環境によくありませんね。そこで、今度はどうしたら、ごみを増やさないようにできるかを考えたいと思います。

そのまえに、ごみってなんでしょう？はじめから、ごみというものはないと思います。例えば、皆さんの身近なごみにお菓子の袋がありますが、もとはお菓子を入れておく入れ物としての役目をしていました。でも、お菓子を食べて入れ物がなくなると、ごみになりますね。ごみというのは、役目を終えたり、使われなくなったものを言い、同じ物でも、例えばごみにならずにすむというわけです。

皆さんは、フリーマーケットを知ってますね。フリー

マーケットは、使わなくなったものを、ごみとして捨ててしまうのはもったいないので、使う人に譲ろうというものです。ごみを増やさない方法のひとつとして、私たちも、学校の中で環境のことを考えながらやるエコ・マーケットをやってみましょう。



こどもエコクラブ

2. 品物の数調べ(エコ・マーケット前) ----->

- ・記録シートを配布します。
- ・新聞紙の上に、子どもたちの持ってきた品物を重ならないように、隙間なく並べ、品物の数を数えます。
- ・数えた個数を記録します。

2. 皆さんが、もう使わなくなって持ってきた品物を、新聞紙の上に重ならないように隙間なく並べながら、品物の数を数えてみましょう。
皆さんが持ってきたこれらの品物は、自宅や学校の机の中などにあったと思いますが、もう使わないから・・・と、捨ててしまうのごみになります。その量は、今数えた個数ということです。
でも、もしエコ・マーケットで欲しいという人がいたら、ごみにはなりません。そういう人が、たくさんいるといいですね。

エコ・マーケットの実施

3. 品物の量調べ(エコ・マーケット後) ----->

- ・記録シートを配布します。
- ・新聞紙の上に、残った品物を重ならないように、隙間なく並べ、残った品物の数を数えます。
- ・数えた個数を記録します。

3. エコ・マーケットで残った品物の中で、皆さんが使いたいと思うものがありますか？ あったら、各自、選んで除けてください。残った品物を、新聞紙の上に重ならないように隙間なく並べながら、残った品物の数を数えて記録シートに書きましょう。
皆さんが持ってきた品物の中で、残念ながらこれらの品物は使う人がなく、ごみになってしまうものです。でも、エコ・マーケットをやる前に比べると、だいぶ少ないですね。ごみになると思われていたものも、使いたいと思う人の手に渡れば、ごみにはならないということです。これも、ごみを増やさないための工夫のひとつですね。

4. 残った品物を、ごみとして分別する - - - →

- ・燃える、燃えない、リサイクルに分別します。
- ・それぞれの数を、記録シートに記録します。

4. 残った品物は、ごみとして出すこととなりますが、その前に「燃える」、「燃えない」、「リサイクル」に分けましょう。

リサイクルに分別できるものは、どのくらいありましたか？リサイクルするということは、そのままでは使いませんが、何か別な物を作る時の材料にして、また使うということです。

まとめ：

黒板に、リユース(Reuse)、リサイクル(Recycle)、リデュース(Reduce)の文字を書き、「3R」について説明します。

まとめ：

ごみを増やさないようにするためには、いったいどうしたらいいでしょう？

ひとつは、使える物は使い捨てずに繰り返し使うということです。詰め替え式のシャンプーの容器などがそうですし、今回のエコ・マーケットは使う人が変わりますが、これもひとつの形ですね。このことを、「リユース」と言います。

また、使えなかったり、使う人がいなかった場合はごみになってしまいますが、ごみとして燃やしたり埋めたりしないで、他の何かを作る時の材料にするのが、「リサイクル」です。

でも、もっと大切なことは、すぐにごみになったり、ごみになりそうな物を増やさないということです。使い捨てたり、すぐにごみになりそうな物を買ったりしないことを「リデュース」と言います。英語で書くと、この3つの言葉のはじめには「R」という文字がつきますので、これを「3R」といいます。

ごみを増やさないようにするため大切なのは、まず、ごみの元となるものを増やさないようにすることで「リデュース」です。次に、長く使えばごみにならないので「リユース」。そして、物としてはごみになってしまっても、その材料はごみにしないため「リサイクル」することを心がけましょう。

関連する情報

製品を作る時の資源やエネルギーの消費から、リサイクルしたりごみとして廃棄したりする時のエネルギーの消費まで、ごみの問題はさまざまな環境問題に関連しています。そのため、ものを必要最小限にしたり長く使ったりする取り組みが、社会の中で積極的にすすめられています。子どもたちの身近な話題を、取り上げてみましょう。

共同使用

個人個人が所有するのではなく、ひとつの物を複数の人たちが共同で使うことで、ものの必要量を抑える共同使用という取り組みがあります。子どもたちにとって、イメージしやすいのが図書館の本でしょう。最近では、自動車や自転車の使用についても導入さはじめています。

再使用

使わなくなった物を再利用するという取り組みではフリーマーケットやリサイクルショップがありますが、駅に備えている置き傘もそのひとつです。そのままでは廃棄されてしまう、忘れられたり捨てられたりした傘を、有効に再利用しています。

放置自転車を修理して販売したり、途上国に送ったりする取り組みもあります。

発生抑制

使用期間の短いものほど、ごみになるサイクルも早く量も多くなります。そこで、それらの量を減らすことで、ごみの発生や資源、エネルギーの消費を抑制する取り組みがあります。

容器や包装の簡易化もそうですし、マイバッグの使用や詰め替え商品が増えてきたことも、その取り組みの一例です。これまで使い捨てされていた乾電池も、充電式のものが多くなってきました。



文具にも、詰め替えタイプが多くなってきました。

プログラムの発展「学級環境会議をひらこう」

学級で、会議形式の環境会議をひらきましょう。会議による意見交換によって、環境保全のためにどのような行動をとればよいか、自分たちに何ができるかという理解が深まります。

また、ルールにそった話し合いをする活動を通して、自分の意見を言うことや相手の意見を聞くこと、さまざまな考えをまとめる方法などが体験できます。

環境会議について

1. 会議の目的

「ごみを減らすため、組が取り組む3つの行動」
ごみを減らすために、各自の生活において学級全員が
取り組む3つの行動を選び、発信する。

2. 会議の準備

- ・机、椅子を「口の字」形に配置する。
- ・議長、書記を選出する。

3. 会議のルール

- ・会議は、議長が進行する。
- ・意見のある人は挙手し、議長の指名によって発言する。
- ・他の人が発言している時は、発言しない。
- ・発言は、ていねい言葉でおこなう(…です。…ます。)

4. 会議の進行

- ・議長が会議の目的を説明する。
- ・各自の意見を聞く。
- ・書記が黒板に記録する。
- ・意見についての質疑応答。
- ・学級の意見として、3つの行動をまとめる。

教室のイメージ

